

# ぐんま緑の県民基金事業

～ みんなの森をみんなで守ろう ～

## 平成28年度

### 実 施 報 告 書



平成29年11月  
群馬県

# も く じ

- はじめに ……1
- 目指すべき目標 ……1
- 期間 ……1
- 平成28年度ぐんま緑の県民基金事業の総括 ……2
- 平成28年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要 ……3
- I 水源地域等の森林整備 ……4
- II 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進 ……9
- III 市町村提案型事業 ……11
- IV 制度運営 ……15
- V ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿 ……18
- VI 資料集(別冊)

## ○ はじめに

群馬県は、県土の3分の2を森林が占めています。

豊かな水を育み、また災害を防止するなど、私たちの暮らしを支え、多くの恵みをもたらす森林は、県民共有の財産です。

県では、この大切な森林を守り、育て、次世代に引き継いでいくため、県民税均等割の超過課税として「ぐんま緑の県民税」を平成26年4月から導入し、様々な施策に取り組んでいます。

## ○ 目指すべき目標

木材価格の低迷や山村地域の過疎化・高齢化などにより放置され、荒廃が進む森林の整備を進めるため、また、森林を取り巻く新たな課題に対応するため、次の目標に向けて施策を進めます。

● 豊かな水を育み、災害に強い森林づくり

● 里山・平地林等の森林環境を改善し、安心・安全な生活環境を創造

## ○ 期間

- 事業期間 5年間(平成26年度から)
- 課税期間 5年間(個人 平成26年度課税(平成25年所得分)から  
(法人 平成26年4月1日以降に終了する事業年度分から)

## 平成28年度ぐんま緑の県民基金事業の総括

ぐんま緑の県民税評価検証委員会は、税の使途の透明性・公平性を確保し、事業内容の検討、実績評価・効果検証を行うために設置され、平成26年度に3回、平成27年度に3回、平成28年度に2回、計8回の委員会を開催し、ぐんま緑の県民基金事業の執行状況や効果について検証・評価を行ってきました。

### □ ぐんま緑の県民税評価検証委員会の総括意見

・ぐんま緑の県民税が導入され、3年が経過した。導入初年度は、市町村、県民への普及啓発が不足していたこともあり、十分な成果が得られたとは言えなかったが、2年目からは市町村、県民への浸透の効果が現れて、3年目に入ると浸透度が更に増して、着実に県全体に広がりを見せるようになってきたことは高く評価される。

・条件不利地の森林整備事業は、森林所有者の所在確認や承諾、境界線の確定などに時間を要しており、進捗状況は高いとは言えないものの、本基金によって初めて手がけられた事業であり、地域の森林の状況を熟知している県だからこそ可能となる事業であると評価される。今後は、自治体、森林組合の一層の協力を得て、作業効率を高めて、進捗率を高めること。

・森林ボランティア活動については、普及啓発の成果が、森林ボランティア団体数、会員数にあらわれており、着実に成果が積み重ねられており、高く評価できる。インタープリターの育成も順調に推移しており、園児や児童生徒、県民全体への森林環境教育が広がっている。このことは、ぐんま緑の県民税の意義についても理解を深めることに結びつき、森林県である本県において官民一体となった分権型地域づくりの一つのモデルとして高く評価できる。今後は、さらに県民への普及啓発を進め、全县に広がっていくことに期待する。

・市町村提案型事業については、平成26年度の29市町村117事業から、平成27年度は31市町村208事業まで増加し、平成28年度は35全市町村266事業まで増加し、県下全市町村で取り組まれるようになったことは高く評価できる。これは、本基金への自治体、住民への浸透度が年々高まってきたからであり、県民参加によって里山整備が進められた。また、希少種の保護など、県民によって環境保全も図られるようになり、後世に群馬の自然環境を伝えることができることも高く評価される。こうした地域の生活環境の改善は、本税を導入したからこそ進められるようになり、ぐんま緑の県民税の導入趣旨に適ったものと評価できる。ただし、事業の継続性に課題が残っており、市町村提案型事業においてB評価が付けられた理由の多くは、この点にあるからでもある。里山の整備や自然環境の保全事業が一過性事業とならないために、県民税の継続を検討し、本事業の継続性を担保することが重要となっている点には留意すること。

・制度運営については、順調に進んでいると認められるが、効果検証をさらに進めるためには、現地調査や実際に事業に参画している県民へのヒアリングなどを行うこと。

・以上より、森林整備事業については進捗率が低いものの、その理由は概ね想定されていたことであることを配慮すると、本基金は概ね当初の計画通りに推進されており、基金の使途についても妥当であると認められる。

・ただし、諸事業が一過性の事業とならないようにすることが自治体、県民からも求められており、現状の問題点や課題を整理し、事業の継続性、改善の方向を検討すること。

平成29年7月

# 平成28年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要

## 財源

【収入】基金(基金残高・税込、寄附金、運用益、諸収入)

1,366,670千円

(内訳) ・基金残高535,523千円 ・税込830,327千円  
 ・寄附金450千円 ・運用益195千円 ・諸収入175千円

※端数処理のため合計値は合致しません。

## 使い道

【支出】ぐんま緑の県民基金事業 958,475千円

※繰越として実施する事業 327,282千円

I 水源地域等の森林整備 709,718千円 【林政課】

(内訳) ・平成27年度繰越事業404,293千円 ・平成28年度事業305,425千円  
 ※平成28年度繰越事業294,820千円

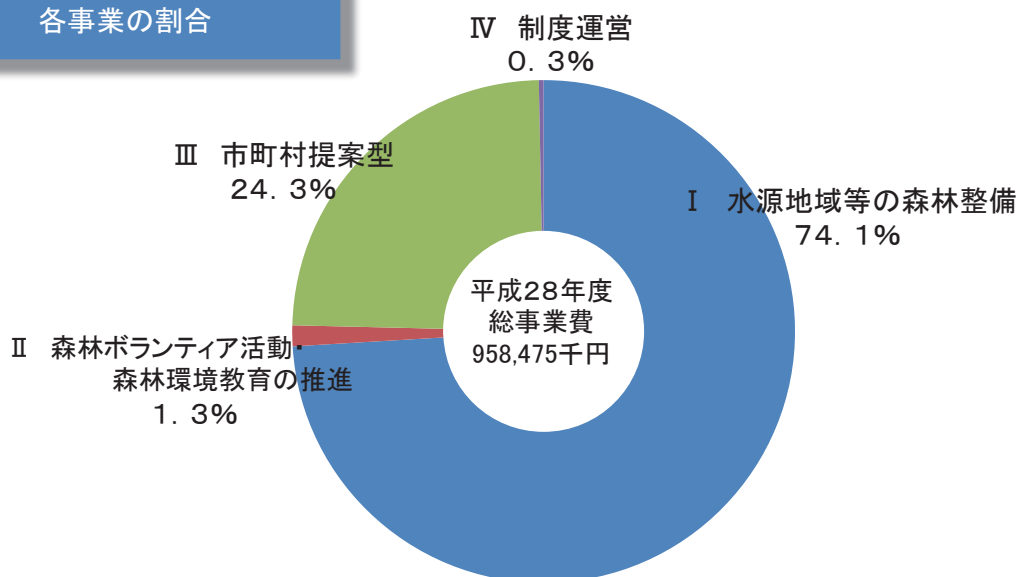
II 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進 12,937千円 【緑化推進課】

III 市町村提案型事業 232,872千円 【林政課】

(内訳) ・平成27年度繰越事業34,211千円 ・平成28年度事業198,661千円  
 ※平成28年度繰越事業32,462千円

IV 制度運営(普及啓発、評価検証) 2,948千円 【林政課・林業試験場】

## 平成28年度総事業費に占める各事業の割合



## 1 概要

### ● 条件不利地森林整備

地理的、地形的な条件により林業経営が成り立たず放置されている条件不利な森林を対象として、間伐などの森林整備を実施します。

### ● 水源林機能増進

市町村が管理する簡易水道等の上流部の森林であって、水源涵養機能等の低下が懸念される森林を対象として、間伐などの森林整備を実施し、水源涵養機能の増進を図ります。

### ● 松くい虫被害地の再生

松くい虫被害木が放置され、笹や竹が繁茂した森林を対象として、コナラやスギなどを植栽し、新たな森林へ再生を図ります。

## 2 事業の流れ

### ① 区域調査委託

事業区域の検討や森林所有者の調査を実施し、判明した森林所有者に対して、事業説明や実施に関する承諾を得ます。



### ② 実施計画調査委託

森林所有者から承諾を得た森林を対象に、事業の実施区域の測量や標準地調査を実施します。



### ③ 森林整備の実施

調査結果を基に間伐等の森林整備を実施します。



## 3 整備イメージ

### 現状

- ・手入れがされず、公益的機能が低下した森林
- ・林内は暗く、下層植生が乏しい



- ・間伐の実施により、林床に光をあてて、下草などの下層植生を回復させる

### 間伐などの森林整備の実施



### 将来

- ・下層植生が回復し、公益的機能の高い森林へ移行



## 4 実施状況

【平成28年度の実績】

709,718千円

(内訳) 平成27年度繰越事業404,293千円 平成28年度事業305,425千円(事務費6千円含む)  
計709,718千円 ※平成28年度繰越事業294,820千円

### ○条件不利地

#### 森林整備

- ・区域調査
  - H27繰越: 181ha
  - H28実績: 669ha
  - (H29へ繰越: 32ha)
- ・実施計画調査
  - H27繰越: 398ha
  - H28実績: 225ha
  - (H29へ繰越: 231ha)
- ・森林整備
  - H27繰越: 337ha
  - H28実績: 168ha
  - (H29へ繰越: 249ha)

### ○水源林

#### 機能増進

- ・区域調査
  - H27繰越: 390ha
  - H28実績: 429ha
  - (H29へ繰越: 31ha)
- ・実施計画調査
  - H27繰越: 350ha
  - H28実績: 94ha
  - (H29へ繰越: 199ha)
- ・森林整備
  - H27繰越: 184ha
  - H28実績: 87ha
  - (H29へ繰越: 135ha)

### ○松くい虫

#### 被害地の再生

- ・区域調査
  - H27繰越: — ha
  - H28実績: 148ha
  - (H29へ繰越: 70ha)
- ・実施計画調査
  - H27繰越: — ha
  - H28実績: 42ha
  - (H29へ繰越: — ha)
- ・森林整備
  - H27繰越: 22ha
  - H28実績: 29ha
  - (H29へ繰越: 15ha)

- ・平成28年度は、平成27年度の繰越事業と、平成28年度事業を実施しました。



条件不利地森林整備 (みなかみ町)



水源林機能増進 (東吾妻町)



松くい虫被害地の再生（渋川市）

○参考（作業状況）



5 成果

- ・ 平成28年度内に827haの森林整備を実施しました。  
（内訳：平成27年度繰越事業543ha、平成28年度事業284ha）
- ・ 計画的な森林整備を推進するため、1,817haの区域調査（平成27年度繰越事業571ha、平成28年度事業1,246ha）を優先して実施した結果、約1,500haの森林について協定が締結され、森林整備の準備が整いました。



## 6 課題・方向性

- ・ 調査対象箇所が小規模分散化してきており、調査対象となる森林所有者数も多くなっていることから、区域調査においては森林所有者や境界の特定、実施計画書調査においては、測量に多大な時間がかかっており、早期の森林整備の発注に支障をきたしています。  
承諾の得られた森林所有者の周辺の森林所有者にも事業の説明を行うなど、集約化の推進を図ります。
- ・ 不在村森林所有者の増加等により、森林境界や森林所有者の特定が困難な状況にありますが、引き続き市町村の個人情報保護条例及び林業担当部署と連携・協力し、また、今後作成される林地台帳を活用し、森林境界と森林所有者の明確化に取り組んでいきます。
- ・ 奥山での作業箇所や小規模で分散した作業箇所が多く、作業効率が向上しないため、これまで以上に労働力が必要となってくることから、受注者に対し、新規就労者の雇用促進や下請として協力会社を活用するなどの指導を行っていきます。
- ・ 過密林を間伐することにより、野生獣が整備後の森林に進入しやすくなり、地域によっては皮剥等の被害が発生していることから、皮剥を防止するための資材等を残存木に設置するなどの対策を行っていきます。
- ・ 区域調査委託による受注者からの説明では理解を得られず、協定が締結できなかった森林所有者については、引き続き担当職員と森林組合の担当者が連携・協力を図りながら、森林所有者への説明を行うことで、協定締結の推進を図ります。
- ・ 平成28年度は、平成27年度繰越予算分として543ha、平成28年度予算分として284haの森林整備を実施しました。区域調査を先行して実施してきたため、繰越は対前年比73%と減っていますが、依然として繰越が多い状況となっていますので、繰越箇所の早期完成及び繰越解消に向けた早期の森林整備の発注を行います。

## 7 実施状況の評価（評価者：県）

- ・ 平成28年度予算での森林整備目標790haに対し、約683ha（年度内完成284ha、繰越399ha（稼働中））の森林整備を行います。  
区域調査・実施計画調査を先行して実施したために、目標達成には至りませんでした。繰り越しの解消に繋がる結果となりました。
- ・ 担当職員と森林組合の担当者が連携・協力したことにより、区域調査における協定締結の推進が図られました。
- ・ 担当職員を対象とした選木技術の向上を図るための現地研修を実施し、気象災害を受けにくく、公益的機能が向上する森林整備の推進が図られました。

## 8 平成29年度の目標面積等

- 平成29年度 水源地域等の森林整備事業 目標面積等について

単位(ha)

事業名	区分	5カ年計画	平成26年度実績	平成27年度		平成28年度				平成29年度予算目標
				計画	実績	計画	実績	繰越	計	
条件不利地森林整備	区域調査	—	1,215	1,874	1,107	1,550	669	32	701	1,400
	実施計画調査	—	421	1,039	645	800	225	231	456	700
	森林整備	3,500	276	700	466	650	168	249	417	650
水源林機能増進	区域調査	—	401	397	951	385	429	31	460	420
	実施計画調査	—	122	300	534	212	94	199	293	210
	森林整備	500	88	165	233	100	87	135	222	100
松くい虫被害地の再生	区域調査	—	162	45	105	80	148	70	218	100
	実施計画調査	—	36	45	13	40	42	0	42	50
	森林整備	200	11	20	31	40	29	15	44	40
合計	区域調査	—	1,777	2,316	2,163	2,015	1,246	133	1,379	1,920
	実施計画調査	—	578	1,384	1,192	1,052	360	431	790	960
	森林整備	4,200	375	885	730	790	284	399	683	790

- 平成29年度については、平成28年度繰越事業分の399haの森林整備を早期に完成させるとともに、全体計画である4,200haを見据えた上で、新たに790haの森林整備面積を目標に、水源かん養機能などの公益的機能を高めるための森林づくりに取り組みます。

## 9 評価検証委員会の意見

- 本基金において予算配分が最も多い条件不利地森林整備の年度別進捗率は、平成27年度66.6%、平成28年度25.8%となっている。全体の計画面積3,500ha内、整備を完了したのは3年間で910haとなっており、全体の進捗率は26%となっている。この要因は、当該森林の所有者の所在が解らず、境界線の確定なども遅れているからである。これは、本基金のスタート時点において想定されていたことであるが、目標面積を達成するために、自治体、森林組合に一層の協力をお願いして、進捗率の向上に努めること。
- 水源林機能増進のための森林整備の進捗率は、平成27年度141%、平成28年度87%と高水準で推移している。目標面積の達成のために、さらに計画的に進めること。
- 松くい虫被害地の再生のための森林整備の進捗率は、平成27年度155%、平成28年度73%となっている。計画面積の36%を完了しているが、目標面積を達成するために取り組むこと。
- 全般的には、計画に遅れが見られる。これは山村地域の過疎化、高齢化に伴い、山林所有者の特定、境界線の確定がスムーズに進められないことが背景となっており、難しい側面もあるが、自治体、森林組合の協力を得て、進捗率向上のために一層の工夫を行うこと。
- 以上のような現状、課題があるものの、条件不利地の森林整備は、本基金によって初めて手がけられた事業であり、地域の森林の状況を熟知している県だからこそ可能となる事業であると評価される。

## Ⅱ 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進 《緑化推進課》

### 1 概要

#### ● 森林ボランティア活動の推進

「森林ボランティア支援センター」を運営し、専用ホームページや情報誌、メールマガジン等による情報の収集・発信や刈払機の取扱いなどの安全指導、森林整備作業器具の貸出し、森林ボランティア体験会の開催など、森林ボランティア活動への一体的なサポートを実施します。

また、「森林ボランティア体験会」や「ボランティア交流会」の開催、市町村提案型事業等への講師・コーディネーターの派遣業務等を実施します。

#### ● 森林環境教育の推進

新たな「緑のインタープリター」を養成し、小中学生を対象にしたフォレストリースクールや市町村提案型事業（森林環境教育）、緑の少年団育成事業、県民を対象にした自然観察会、自然講座等への派遣などを通じて森林環境教育を推進します。

### 2 実施状況

【平成28年度の実績】

12,937千円

#### ○ 森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア支援センターの運営
- ・専用ホームページ「モリノワ」の運用
- ・情報誌「モリノワ」、メールマガジンの発行
- ・森林整備作業用の機械・器具の貸し出し：77回
- ・安全講習会の開催 開催回数：11回、参加人数：394名
- ・森林ボランティア体験会の開催：開催回数：5回

#### ○ 森林環境教育の推進

- ・緑のインタープリター養成講座の開催
  - ・新規講座：12回（養成者数22名）
  - ・経験者講座：4回（養成者数4名）
- ・緑のインタープリター登録者数：94名
- ・フォローアップ研修 開催回数：3回



情報誌「モリノワ」



貸出し機材



刈払機の安全講習会



ボランティア体験会



指導者養成講座

## 3 成果

### ○森林ボランティア活動の推進

森林ボランティア支援センターを運営し、専用ホームページや情報誌、メールマガジンなどによる情報発信や刈払機取り扱いなどの安全研修、森林整備作業器具の貸出、新規参入を促すボランティア体験会などを実施し、森林ボランティア団体の活動を支援しました。

### ○森林環境教育の推進

- ・指導者養成講座の実施により、新たに26名の「緑のインタープリター」を養成しました。
- ・新たに開始した「緑のインタープリター活動登録制度」により94名が活動登録しました。
- ・登録した緑のインタープリターは、市町村提案型事業(森林環境教育)や出前授業の「小・中学生のためのフォレストリースクール」の講師など多方面で活動を行いました。

## 4 課題・方向性

### ○森林ボランティア活動の推進

- ・県民自らが森林や林業に関心を持ち森林保全や森林整備の必要性について理解を深めることが重要なことから、森林ボランティアに取り組む団体等の支援をさらに推進する必要があります。

### ○森林環境教育の推進

- ・森林や自然に対する県民の関心と理解を深めるためには知識・ノウハウのある指導者が不可欠なことから、引き続き指導者の計画的な養成を図っていく必要があります。
- ・また、フォレストリースクールや市町村提案型事業(森林環境教育)等の指導者ニーズに対応するため、指導者の量的・質的確保を図る必要があります。

## 5 実施状況の評価（評価者：県）

### ○森林ボランティア活動の推進

専用ホームページや情報誌、メールマガジンによる情報収集・発信、刈払機などの安全研修、森林整備作業器具の貸出、ボランティア体験会の開催などの取組を行い、おおむね計画どおりに支援を実施しました。

平成28年度末の森林ボランティア団体数は86団体、会員数5,344人(緑化推進課調査)と増加傾向にあります。

### ○森林環境教育の推進

現地研修や講師実習など実践的なカリキュラムを含め年12回の講座を開催し、26名の「緑のインタープリター」を養成しました。

なお、活動登録者数は94名となり、着実に増加しています。

## 6 評価検証委員会の意見

・森林ボランティア活動の普及啓発を進めた結果、平成28年度末における森林ボランティア団体数は86を数え、会員数は5,344人に達しており、当該事業の成果は着実に積み重ねられている。

・インタープリターについても新たに26名が加わり登録者は94名に達し、森林環境教育に多大なる貢献をいたした。当該事業の成果も着実に積み重ねられている。

・こうした動きは、ぐんま緑の県民税の導入によって拡大、定着し、県民の森林への関心が高めつつあるとしてもよい。また園児や児童生徒への森林環境教育も市町村提案が他事業にも組み込まれて広がっており、森林県である本県にとって、たいへん意義深い。

・県民が森林県である県の特性に理解を深めることは、ぐんま緑の県民税の意義についても理解を深めることに結びつき、官民一体となった分権型地域づくりの一つのモデルとして高く評価できる。今後は、さらに県民への普及啓発を進め、全県に広がっていくことに期待したい。

## 1 概要

- 荒廃した里山・平地林の整備

市町村と地域住民やNPO・ボランティア団体等の協働による地域に根ざした森林整備を支援します。

- 貴重な自然環境の保護・保全

市町村あるいは市町村と地域住民が行う、県動植物レッドリストで野生絶滅種及び絶滅危惧種Ⅰ、Ⅱ類に指定されている種(約650種)が生息している地域の保護・保全活動を支援します。

- 森林環境教育・普及啓発

児童生徒や県民を対象とする森林環境教育及び森林体験活動を支援します。

森林の機能や重要性について普及啓発する取り組みを支援します。

- 森林の公有林化

水源地域の森林や平地林の購入(公有林化)あるいは平地林を造成しようとする市町村を支援します。

- 独自提案事業

ぐんま緑の県民税の趣旨・目的に適合し、適切な事業であると認められ、評価検証委員会の承認を得た事業を支援します。

## 2 実施状況

【平成28年度の実績】

232,872千円

## 3 平成27年度繰越事業

・平成27年度事業のうち、以下の事業については繰越により平成28年度に実施しました。

	繰越			完了			事業量	廃止		
	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)		市町村数	事業数	補助金額(千円)
荒廃した里山・平地林の整備	5	14	62,305	5	12	34,211	森林5ha、竹林5ha	2	2	26,016
貴重な自然環境の保護・保全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
森林環境教育・普及啓発	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
森林の公有林化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
独自提案事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	5	14	62,305	5	12	34,211		2	2	26,016

## 4 平成28年度採択状況

・平成28年度は以下の事業を採択しました。

	計			事業計画量
	市町村数	事業数	補助金額(千円)	
荒廃した里山・平地林の整備	29	197	245,440	森林74ha、竹林36ha、管理144ha
貴重な自然環境の保護・保全	12	25	7,823	動物14種、植物29種
森林環境教育・普及啓発	20	40	19,738	覚満淵等での自然観察会
森林の公有林化	1	1	3,175	水源林3ha
独自提案事業	3	3	3,824	竹林1ha、苗木購入1ha
合計	35	266	280,000	

## 5 平成28年度事業実績

・平成28年度は以下の事業を実施しました。

	完了			事業量	参考:繰越			(廃止)		
	市町村数	事業数	補助金額(千円)		市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)
荒廃した里山・平地林の整備	29	156	168,313	森林49ha、竹林25ha、管理107ha	6	21	31,932	7	20	15,733
貴重な自然環境の保護・保全	12	25	7,606	動物14種、植物26種	—	—	—	—	—	—
森林環境教育・普及啓発	20	39	18,259	約9500人	—	—	—	1	1	300
森林の公有林化	—	—	(2,645)	—	1	1	530	—	—	—
独自提案事業	2	2	1,838	森林1ha・竹林2ha	—	—	—	1	1	149
合計	35	222	198,661		7	22	32,462	8	22	16,182

※変更等により補助金額の増減があるため、採択時の合計補助金額と実績の合計補助金額は一致しません。括弧は概算払の箇所を示します。

### ・市町村提案型事業の状況



荒廃した里山・平地林の整備（沼田市）



荒廃した里山・平地林の整備（片品村）



荒廃した里山・平地林の整備（東吾妻町）



荒廃した里山・平地林の整備（前橋市）



貴重な自然環境の保護・保全（館林市）



貴重な自然環境の保護・保全（渋川市）



森林環境教育・普及啓発（太田市）



森林環境教育・普及啓発（館林市）



森林環境教育・普及啓発（川場村）



独自提案事業（渋川市）

## 6 成果

- ・市町村の林業担当部署や教育委員会等に訪問して事業の趣旨・制度の説明等、事業の普及に努めた結果、平成28年度は県内全市町村(35市町村・266事業)で取り組まれました。
- ・事業の普及に努めた結果、森林環境教育については、平成27年度に約5,800人でしたが、平成28年度は約9,500人と参加者が増加し、より多くの県民に森林の大切さや役割を伝えられ、森林環境に対する意識の向上が図られました。
- ・里山・平地林整備において、森林や竹林整備を実施し、野生獣の出没抑制、生活道路や通学路の見通しの確保等が図られ、地域住民の安心・安全な生活環境の改善が図られました。
- ・自然環境の保護・保全については、刈り払い等の環境整備を行うことにより、40種の希少種の保護が図られました。
- ・事業を普及してきた結果、平成28年度同様、平成29年度においても、県内全市町村から事業計画書が提出され、平成29年3月に開催された評価検証委員会において、当初予算(280,000千円)に相当する事業が承認されました。

## 7 課題・方向性

- ・荒廃した里山平地林の整備の困難地整備支援については、地元による管理への負担感から、協定を締結できず、廃止となった事業があります。市町村と協力しながら地域の取組を有益に活用できる体制づくりを推進します。
- ・年度内に事業が完了せず、繰越が生じているため、事前着手届を活用するよう周知を図ります。
- ・県内全市町村に事業を活用してもらうため、引き続き事業の普及を図ります。

## 8 実施状況の評価（評価者：県）

- ・事業の普及に努めた結果、県内全市町村で事業を活用したことから、事業の推進が図られました。
- ・荒廃した里山・平地林の整備については、採択された計画の一部について、地元管理団体との調整が難航し、継続して管理していくことが困難となり、事業の有益な活用が図られない案件が生じました。市町村と連携し、ボランティア団体の活用や地元管理団体の育成を図っていきます。

## 9 評価検証委員会の意見

- ・事業数は、平成26年度の29市町村117事業から、平成27年度は31市町村208事業まで増加し、平成28年度は35全市町村266事業まで増加した。これは、本基金への自治体、住民の認識及び浸透度が年々高まってきたからだと考えられる。
- ・県民参加によって里山整備が進められ、地域の生活環境の改善が進められている現状は、高く評価される。
- ・希少種の保護など、環境保全も図られるようになり、後世に群馬の自然環境を伝えることが出来ることも高く評価される。
- ・事業の継続性に課題が残っている。里山の整備や自然環境の保全事業が一過性にならないようして、永く保全可能とするため、本事業の継続性が重要だと考えられる。



## 1 概要

## ● 普及啓発

ぐんま緑の県民税への理解を深めるため、税のしくみ、森林の役割や大切さの普及啓発活動を実施します。

## ● 評価検証

事業の内容検討・実績評価・効果検証などを行う「ぐんま緑の県民税評価検証委員会」を運営します。

事業の客観的な効果検証を行うために必要な県の林業試験場による調査・分析を実施します。

## 2 実施状況

【平成28年度の実績】

2,948千円

## ○普及啓発

【平成28年度の実績】

1,227千円

- ・「ぐんま緑の県民税」パンフレットの増刷(5,000部)
- ・子供向けパンフレット「ぐんま緑の県民税 ぐんまの森林・林業」の作成(2,000部)
- ・広報媒体を利用した普及啓発(県HP等)
- ・本事業による整備箇所を見学するバスツアーの実施(3回・111人)  
「ぐんまの森林をトレッキング！ 歩こう、登ろう！ ぐんまの森林ツアー」
- ・市町村への普及啓発活動

パンフレット



子供向けパンフレット



バスツアー



○評価検証（評価検証委員会の運営）

【平成28年度の実績】

621千円

・ 評価検証委員会の開催（2回）

1回目：平成28年 9月 5日 …県庁29階 第一特別会議室 10:00～12:00

2回目：平成29年 3月21日 …県庁 7階 審議会室 10:00～12:00



○評価検証（調査分析）

【平成28年度の実績】

1,100千円

- ・ 水源地域等の森林整備事業地を対象に間伐の実施による事業効果の判定
- ・ 県内20箇所に設定した調査対象地の追跡調査を実施  
(相対照度測定・植生調査・植被率調査)



相対照度の測定の様子

調査地の内訳

調査項目	通常区	特定調査区
毎木調査		○
照度	○	○
植被率	○	○
植生乾燥重		○
土壌断面		○
植生調査	○	○



植生調査



植被率調査

## 3 成果

### ○普及啓発

・ ぐんま緑の県民基金を広く普及啓発するため、小学生を対象とした子供向けパンフレットの作成、各種メディア媒体を活用した広報活動の実施、また、県民税を使った森林整備箇所を見学するバスツアーを実施し、ぐんま緑の県民税の趣旨や事業内容などの理解の促進を図りました。

### ○評価検証（評価検証委員会の運営）

・ 2回の評価検証委員会を開催し、平成29年度に実施する307事業の採択などを行い、議事の内容や審議結果を公表しました。

### ○評価検証（調査分析）

・ 20箇所の水源地域等の森林整備事業地を対象とし、間伐実施後の森林の状況を調査し、調査分析に必要となる情報の収集を実施しました。

## 4 課題・方向性

### ○普及啓発

・ 県民が事業の成果やその効果について理解を深めるために、引き続き、広報誌や各種メディア媒体を活用し効果的な広報活動に努めます。

### ○評価検証（評価検証委員会の運営）

・ 事業の検証や評価、助言を通して、明らかになった課題の解決に努めます。

### ○評価検証（調査分析）

・ 間伐実施後の調査地のデータを確実に収集し、適切な調査分析を実施します。

## 5 実施状況の評価（評価者：県）

・ 制定から3年が経過し、1次募集で平成29年度予算全てが採択されていることから、県民の理解は進んでいると考えられます。

・ 平成28年度の制度運営に関する取組内容は適正に実施されており、概ね期待された成果が得られました。

## 6 評価検証委員会の意見

・ 普及啓発の効果は、森林ボランティア活動団体の増加、会員数の増加、市町村提案型事業の内容に反映されている。群馬県独自の森林環境税の導入によって、これまで自治体も県民も目を向けなかった、あるいは向けられなかった里山、森林の現状改善、希少種の保護に大きく寄与し、県が一体となって、自らの地域の森林の保全や整備に取り組む姿が具現化してきたことであらわれており、事業は着実に成果を挙げていると評価できる。

・ 評価検証については、事業実施地の状況を検証して、評価と課題の析出を行うこと。

## V ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿

(五十音順 敬称略)

氏名	職業・役職等	参考	備考
内山 はるの	森林所有者	森林・林業関係者	
金子 裕昭	連合群馬事務局長	納税者(労働団体)	
鬼頭 春二	みなかみ町副町長	山地代表市町村	
小山 定男	館林市副市長	平地林代表市町村 (H28.4.22～)	
高橋 淳子	桐生大学短期大学部 生活科学科教授	学識経験者 (環境教育)	
田村 辰夫	森林所有者	森林・林業関係者	
西岡 喬	太田商工会議所副会頭	納税者(経済団体)	
西野 寿章	高崎経済大学地域政策学部 観光政策学科教授	学識経験者 (森林環境保全)	委員長
松本 勉枝	群馬県生活協同組合連合会 女性協議会会長	納税者(消費者団体)	
宮地 由高	群馬NPO協議会相談役	学識経験者 (NPO・ボランティア活動)	委員長代理

(任期 : 平成27年4月1日 ~ 平成29年3月31日)



## ぐんま緑の県民基金事業 平成28年度 実施報告書

○ この実施報告書に関するお問い合わせ先

群馬県環境森林部 林政課 林政推進係  
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1  
TEL:027-226-3278 Fax:027-223-0154  
E-mail :rinseika@pref.gunma.lg.jp

○ ぐんま緑の県民税ホームページ

<http://www.pref.gunma.jp/04/e3000101.html>